

「わかる授業」の実践に向けて

1 ねらい

授業に集中できない生徒や基礎的・基本的な学習事項を十分に理解していない生徒がいる中で、すべての生徒に「確かな学力」を身に付けさせるとともに、生徒の学習意欲を高める授業の工夫と改善を図る。そのために、生徒にとって「わかる授業」を実践する。

2 取組概要

- (1) 教職員の授業力と資質の向上を図るための校内研修
 - ア 教科を好きにさせる授業づくり
 - イ 言語活動の工夫と改善
 - ウ 自信と誇りをもった学校生活の実現
 - エ 基本的な生活習慣と授業規律の確立

授業の約束十箇条

- 1 授業の用意をし、チャイム着席をする。
- 2 挨拶は教師を見て体を静止させ、大きな声で行う。
- 3 椅子を引き、正しい姿勢で授業を受ける。
- 4 静かで落ち着いた雰囲気をつくる。
- 5 挙手は黙って、まっすぐ手をあげる。
- 6 発言は大きな声で主語と語尾を丁寧語ではっきりと話す。
- 7 授業に集中して取り組む。
- 8 意欲的に発言する。
- 9 わからないところは積極的に質問する。
- 10 忘れ物がないように前日に用意する。

【(1) エ 授業規律の基本的な共通理解項目】

(2) 日本人の TT 指導による授業の工夫

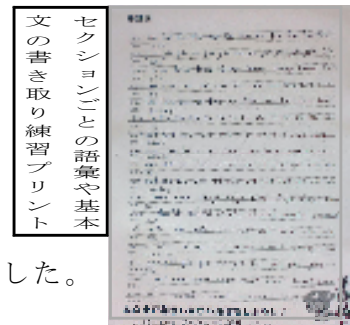
日本人同士の TT による授業では、ALT との TT と同様に言語活動を充実させることを基本とした。指導内容や場面によってはスローラーナーやつまずきやすい生徒への支援及び個別指導を行う体制をとった。一人が授業を展開し、一人が生徒の支援を行った。

(3) 生徒に英語を「書くことに慣れさせる」指導

英語の 4 技能の中で、特に「書くこと」の活動が少なくなる傾向があるため、次のような「英語を書く活動」や「言語活動」を行った。①語彙や基本文の書き写し ②基本文のドリル練習 ③自己紹介文の作成 ④友達紹介文作成等である。これらの指導を行う上で、日本人による TT 指導が有効であったと考える。

(4) 家庭学習習慣の確立

本年度の学習状況調査の英語科の結果がすべての観点において県及び市の平均値を上回った大きな要因の一つとして、ほぼ毎回の授業に関する宿題とその回収・点検活動を継続した成果と考える。具体的には、その日の授業で学習した語彙や基本文、本文を練習用のプリントや生徒のノートに書かせた。日本語和訳も必ず書かせた。次時の授業で回収・点検を行って生徒に返却した。



3 成果等

本年度の学習状況調査の結果として、英語を「聞くこと」と「読むこと」の問題の県及び市の平均値よりも 3～5 ポイント上回った。さらに「書くこと」においては、県平均 (44.9)、市平均 (45.7) と比較して、本校は 54.6 という結果だった。英語を「書くこと」に関わる問題の中で、特に、言語についての知識を問う問題、語順を問う問題、自分の考えや気持ちを書く問題の正答率が良かった。英語や英文を書くことに慣れ、間違いを恐れずに意欲的に書こうとする姿勢が育っていると考える。課題としては、be 動詞、助動詞で始まる疑問文または疑問詞で始まる疑問文の理解と運用力を高めること。また、会話やスピーチの英文を読んで、その詳細を理解する力を身に付けさせる必要があると考える。